

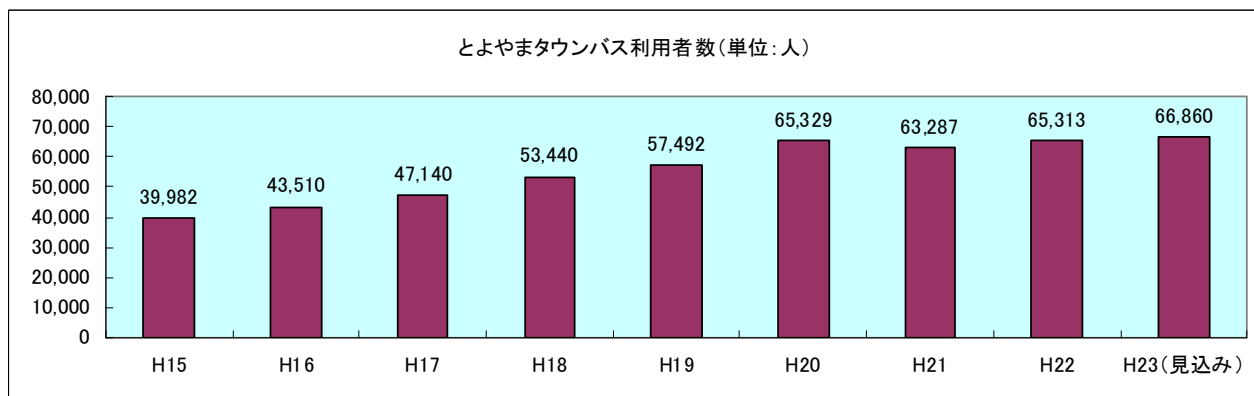
(1) 平成23年度の概況

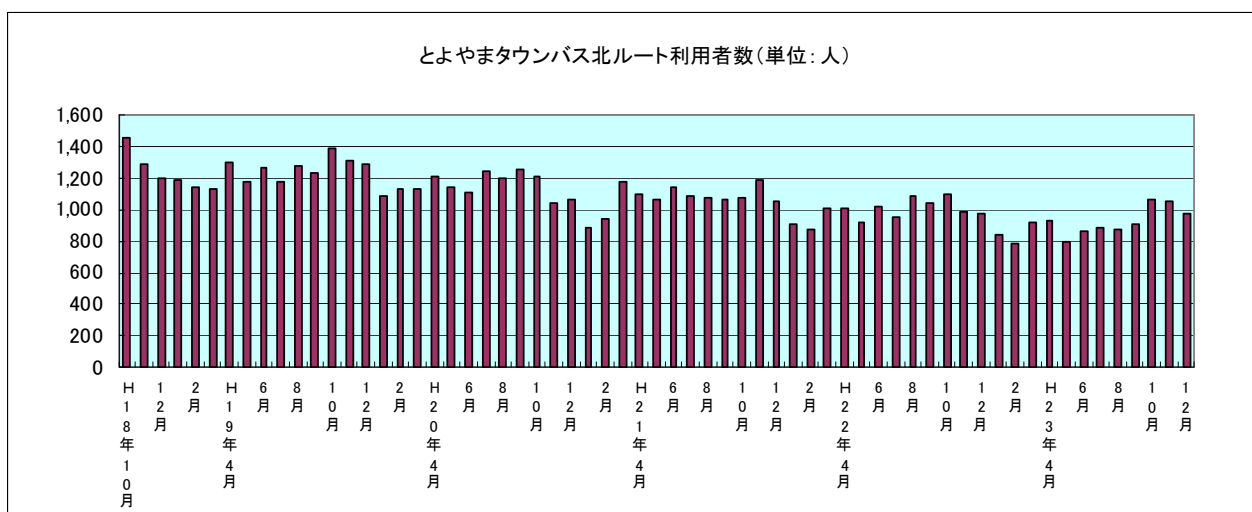
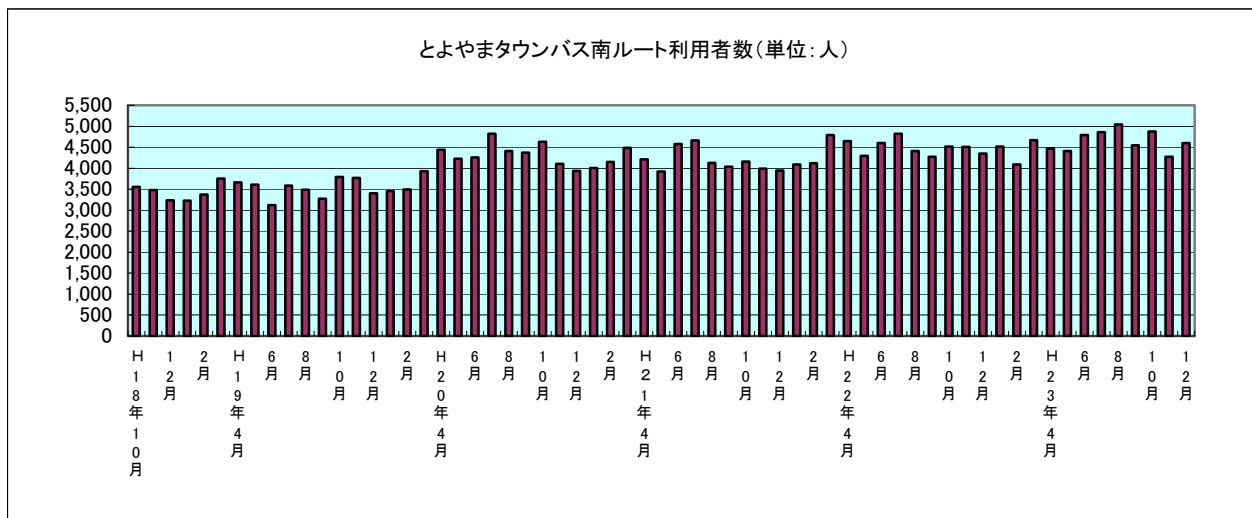
- 大きな路線やダイヤの変更はない。
- 東日本大震災を原因とする出控え傾向による利用者の減少も見られず、いずれの路線においても利用者が増加する傾向にある。
- 県道名古屋豊山稲沢線の供用開始により、町内の交通事情に変化が見られる。

日にち	対象となるバス路線	変更・特記事項	備考
3/27	名古屋空港直行バス	「幸田」のバス停を新設。併せて、空港方面行き「豊山」バス停を空港に近づけ、「空港口」とした。	「幸田」設置で本町西部の公共交通空白地域が減少。「空港口」は三菱重工業㈱の利用者に配慮した。
5/1	名古屋空港直行バス	「勝川駅」バス停が駅ロータリー内へ移動した。	駅との乗り継ぎが便利になるとともに、屋根のあるバス停となり、アメニティが向上した。
9/26	西春・空港線	名鉄バスの西春・空港線の「豊山町社会教育センターバス停」が新しい道路に移動した。	ダイヤ、運賃は変更しなかった。
10/1	名古屋空港直行バス	豊山幸田・勝川線を新設。10便を増便した。	・本町と春日井市・JR中央線へのアクセスが向上した。
11/2	愛知県地域間幹線系統確保維持計画等の認定と国庫補助額の内定	とよやまタウンバス南ルートと、名古屋空港直行バス豊山・勝川駅前が地域間幹線系統と認定され、補助対象となった。	とよやまタウンバス南ルート： 444千円(H23)、855千円(H24) 豊山・勝川駅前系統： 1,502千円(H24)

(2) とよやまタウンバス

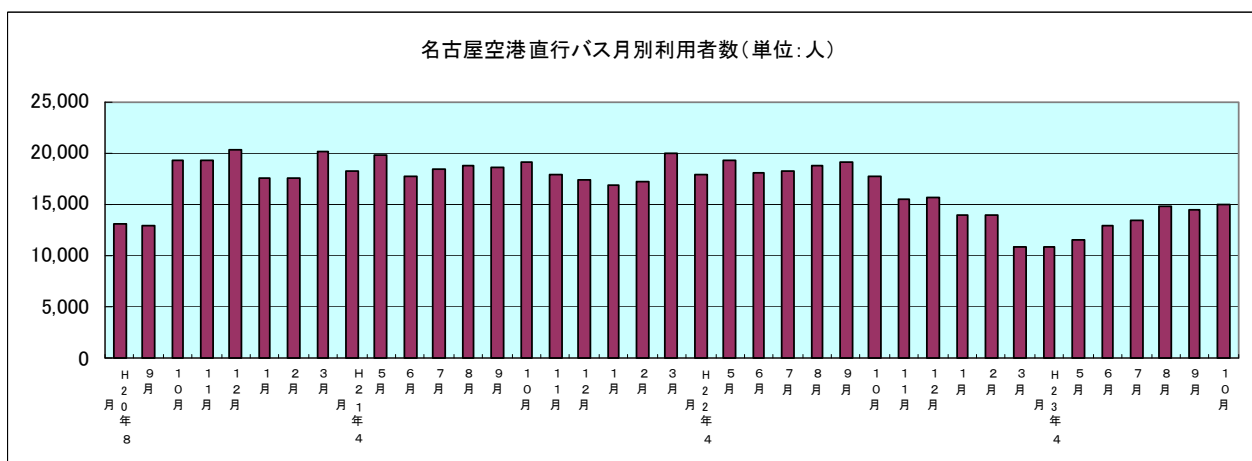
- 利用者数は、平成23年度は22年度より微増する見込みである。
- 南ルートは、これまでの月間最大利用者数である、5,039人を8月に記録した。
- 北ルートは、開設以来の減少傾向が続いている。
- 県道名古屋豊山稲沢線の供用開始に伴い、新たな幹線道路ができた。





(3) 名古屋空港直行バス

- ・ 県営名古屋空港の利用者が主であるため、昨年の(株)ジェイエア撤退の影響を受けて、平成22年の9月から、23年の3月にかけては減少傾向にあった。
- ・ その後、(株)フジドリームエアラインズの搭乗者数の増加に伴い、バス利用者も増えている。
- ・ 4月1日に設置した幸田バス停については、開設時より75%増加(177人→311人)している。また、勝川バス停についても80%増加(710人→1,273人)している。



(4) 名鉄バス 西春・空港線

- ・全体の利用者は、増加する傾向にある。
- ・名古屋空港直行バスと同様、(株)フジドリームエアラインズの搭乗客の増加に伴い、利用者が回復している。
- ・伊勢山西、西豊場など、県営名古屋空港以外のバス停の利用者の増加が目立つ。とくに豊山町社会教育センターバス停は、設置時よりも、111%増加(893人→1,890人)している。三菱重工業の関係者の利用が増えていると見込まれる。

